

令和2年6月定例県議会健康福祉常任委員会(7/3分)

(質問)

重点医療機関の病床確保に65億7000万円、疑い患者専用病床の確保に1億8000万円、その他の病床確保に2億5000万円、合計70億円の予算計上となっているが、それぞれ何床の確保を見込んでいるのか。

PCR検査体制の拡充について、感染症検査機関等設備整備事業として1億6000万円が計上されているが、これにより、どの程度検査件数を増やすことができるのか。また、先般の補正予算後の検査体制は、946件の見込みという答弁があったが、今回の事業により、全体でどの程度拡充されるのか。

(入江委員)

(回答)

重点医療機関の病床数は400床、疑い患者専用病床は20床、その他は80床として、予算を積算している。

今回の追加補正によるPCR検査件数の増加について、新型コロナウイルス感染症に精度の高いPCR検査機器を使用している保健所の件数を参考にして想定したところ、県内の検査体制は800件の増加を見込んでいる。これにより、これまでの946件と合わせ1746件となると考えている。

(館岡疾病対策課長)

(質問)

妊産婦への総合的な支援の中で、中核市、政令市は既に補正予算が可決、成立しており、県と連携して、速やかに実施に向けて進めていただきたいと思うが、具体的な実施目標はいつになるのか。

(入江委員)

(回答)

妊産婦へのPCR検査については、早期の実施に向けて、関係機関である産婦人科医学会や政令、中核市等と、現在、調整や協議を進めているところであり、早ければ、8月中の実施に向けて検討しているところである。

(尾関児童家庭課長)

(質問)

重点医療機関について、指定に当たっての県内の地域バランス、また個所数についてどのような考えなのか。

これまでどのくらいの医療機関が重症患者を受け入れたのか。

(入江委員)

(回答)

県内の今後の重点医療機関の整備に関しては、専門家の意見を聞きながら体制を整えていく。

これまで重症患者の最も多かった4月14日には14病院において23人の方を受け入れていた。

(館岡疾病対策課長)

(質問)

県の案という段階でも、重点医療機関については、まだ具体的なイメージがないということが分かった。そこでお聞きしたいが、医療提供体制の役割分担、そして、感染状況に応じた段階的な病床確保のスキームについては、いつまでに千葉県として決めていくのか。

(入江委員)

(回答)

病床の確保についての御質問であるが、病床の役割分担とかフェーズに応じた病床の確保については、現在、各医療機関と調整を進めているところであり、7月下旬を目途に決めていきたいと考えている。

(井上健康福祉政策課長)

(要望)

千葉県としては目標の設定がされていないが、PCR検査の検査件数の目標を掲げ、さらに拡充をしていただきたい。その際、医療、介護、福祉従事者への優先的な検査の実施に向けて検討をしていただきたい。

(入江委員)

(要望)

医療機関からは、今回の国の協力金又は慰労金だけでは、病院経営をカバーできないという話がある。第2波、第3波といった秋冬の流行が来る前に、医療機関が破綻することのないように、千葉県としても、国のスキーム以外に、追加でできることがないのかどうかを検討するよう要望する。

(入江委員)

(要望)

妊婦の分娩前の検査については、速やかな実施に向けて調整いただいているということなので、8月に始められるようお願いする。

(入江委員)